

2009年(平成21)11月

カルメル
靈性センターニュース



248号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



第一卷

第13章 誘惑に抵抗する

8 過信してはならない

完徳の道をどれほど進んだかは、誘惑と試練のときにわかるのである。その時、その人の得ている功德があらわれ、徳がますます光るのである。いかなる試練にもあっていない時に熱心に信心生活をして、それは大したことではない。しかし、試練の時、力強く耐え忍ぶなら、その人は大いに徳に進む希望がある。ある人々は、大きな誘惑に打ち勝っても、日々の小さな試練に負ける。それは、小さなことに負ける者が、大きなことに打ち勝ったとうぬぼれないように、へりくだらせるためである。

第14章 邪推を避ける

1 自分のことを省みなさい

自分のことを省みて、他人のことを裁いてはならない。他人をさばくのはむだなことで、しばしば誤り、容易に罪に陥る。しかし、自分自身を調べて裁くのは、いつも益になることである。私たちは、好悪の感情によって、事を裁きがちである。自愛心に目がくらんで、正しく裁く自由を失うからである。

神が、いつも私たちの望みの唯一の対象であるならば、自分の考えに他人が反対しても、それほどたやすく心を乱されることはないであろう。

心の泉



聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd - 1 1 -



わたしの心の深奥におられ
働きかけられる神は
わたしの父

ご自分のいのちを
絶えず注いで
わたしを 新たに
つくり変えてくださいます

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

美しい秋がやってきました。11月には諸聖人、死者の日・・・そして今年は少し早めに王であるキリストの祝日を祝います。こうして教会の典礼では待降節を迎え、B年からC年の新しい年がはじまります。救い主がこられるのを大きな希望の内に待つ待降節・・・一人ひとりのうちに主が「救い主」としてこられますように。

今月のマリー・エウジェンヌ神父の言葉はわたしたちにおん子を救い主として遣わして下さったおん父、わたしたちの父はわたしの心の深奥に住まわれておられ、働きかけておられることを思い出させてくれます。遠くにおられ、わたしたちの祈りを聞いてくださる父なる神ではないのです。わたしたちの深奥、心の深みにおられ働きかけられる神なのです。そしてご自分のいのちを絶えず注いでくださいます。この真理をわたしが信じるなら、常にわたしを新たに作りかえてくださるのだということです。洗礼のときいただいた神のいのちは、平凡な生活においてもわたしのうちにすくすくと育つことを確信しましょう。そのためにわたしにできること、それはわたしのうちにとどまり、絶えずご自分のいのちを注ごうと働きかけられるお「方」を信じることなのです。そのためにこそわたしたちは洗礼のとき対信徳といわれる信・望・愛の恵みを受けているのですから・・・。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(51)

ルドルフ・デ・スーザ OGD (カルメル会)

どれほどたくさんの傷や怒りや暴力を、それらの手は表現してきたことでしょうか。どれほどたくさんの優しさや温かさや愛を、それらの手は表現してきたことでしょうか。どれほどしばしば、それらの手は折るために生まれ、嘆願するために天へと上げられたことでしょうか。手がなかったならば、私たちの人生はいったいどんなものになっていたのでしょうか。ですから言いましょう。「主よ、接触の賜物をお与えくださり、感謝いたします」と。

練習 2

これは、接触の練習です。接触は私たちの外側ばかりでなく、内側のすべてにわたっています。あなたは、これらの文を読みながら、この練習を行うことができます。快適な姿勢を取って、頭のとっぺんに注意を向け、そこにある可能なすべての感覚に注意してください。徐々に、額にあるすべての感覚を感じてください。優しくゆっくりと、まぶたを感じるようにしてください。それから頬、唇、顎あたりの感覚を感じてください。そして首のまわりの着物や右肩、右腕、右手の指、指先の感覚を感じてください。右肩にもどって、左肩、左腕、左手の指、指先を、あなたの頭の中に身体の部分のいかなるイメージも浮かべないようにして、感じていってください。左方にもどり、背中を感じてください。背中全体を感じ、やさしく再び首の感覚にもどってください。次に胸、肺の動きを、ふくらんだり縮んだりするのを感じてください。お腹の上の着物の接触を感じてください。それからゆっくりと右もも、右膝、右足、最後に足指に注意を移動していってください。逆の順番で同じところを感じてください。そして左もも、左膝、左足、足指と感じてください。あなたが座っているシートに注意してください。身体全体が注意力をもって触れられる時、あなたは十分にリラックスし、祈りの旅を続けることができますでしょう。

快いものに触れる楽しみからは、もっとおびたしい、またさらに危険な害が生じ、感覚的なものがまもなく精神の中にまで流れ込み、その力とたくましさをなくしてしまう。…この楽しみからは欲情が生じ、精神は柔弱となり、臆病となり、ひどく感覚的になって、甘くなり、すぐにでも罪を犯し、心を傷つけるようになってしまう。…霊的無知と暗愚に止まるために、物事の正しい判断ができず、倫

理的には臆病と不安定をつくりだす。…これは時として精神をくらますため、心または良心を無感覚とする…。魂は靈的倫理的な宝に対して、用をなさないものとなり、あたかも壊れた器のように役に立たないものとなる。(『カルメル山登攀』Ⅲ, 25, 6)

むすび

皆さんが今読み終えた内容が、今まで知らなかったことを含んでいることを私は望んでいます。私の望みは、読まれた内容が、いつ時に一つのことをすることによって、皆さんが生きていることにより集中していくことができるよう助けることにあります。いつ時に多くの事に関心を持つことは、私たちの心身をそこない、望むような実りを手にすることはできないでしょう。

この本、講話集の第二巻、月例静修の講話集、何と呼んでもけっこうですが、これによって皆さんが幸せになるようにと望んでおります。この本は、前の出版にもう一つ付け加えるようなものとしては考えませんでした。これらの講話を多くの聴衆へと発展させるよう求められ、その内容を分かち合い続けることは、私の趣味のようなものです。皆さんがこれらの講話から何か得ることがあったならば、私はもう何も言うことはありません。ただ神に感謝し、神が私に与えられたすべての機会に対して感謝したいと思います。もしあまり得ることがなかったならば、たぶん他の内容やスタイルの本が皆さんには有益だったのでしょう。皆さんが探しているものを見出すことができるよう祈っています。

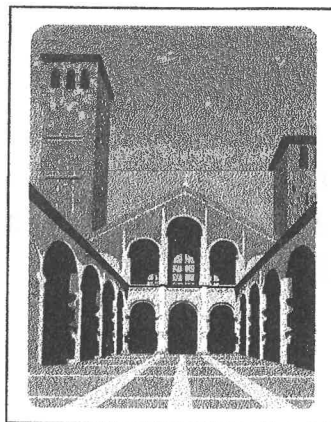
時々、郵便やEメールで励ましてくださった親愛なる読者の皆さんの支えにも感謝いたします。神の祝福が皆さんの上にありますように。よろしければ、これからもよろしく。また機会が与えられますように。私たち内に、私たちの周りに、神の国を築いていこうとするあらゆる働きと努力の中で、神が賛美されますように。聖パウロの次の言葉もって、以上述べてきたことをまとめたいと思います。

「あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」(1 コリ 10 : 31)。

(完)

(九里 彰訳)

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧 (126)



神の民である教会

イエスが多くの人々の中の一人の人間であるように、教会も多くの組織の中の一組織です。そしてイエスよりもっと魅力的な容姿の人々がいるように、教会よりずっとうまく運営されている組織がたくさんあります。けれどもイエスは神の愛を明らかにするために私たちの間に現れたキリストであり、教会はその現存を今日の世界に目に見えるものとするために共に呼ばれた人々の集まりなのです。

私たちがイエスにずっと前に出あったならば、イエスをキリストと認めたでしょうか。私たちは今日、彼の体である教会の中にキリストを認めることができるでしょうか。私たちは、信仰の飛躍をするように求められています。そうするならば、私たちの目は開かれ、私たちは神の栄光を見ることでしょう。

(1021)

教会の中でキリストに出会うこと

教会を愛することは、ロマンティックな感情を求めています。それは、人々の中で生きたキリストに出会おうとする意志、私たちがキリストご自身を愛することを望むように、人々を愛そうとする意志を求めています。これは、「小さな」人々——貧しい人々、抑圧された人々、忘れ去られた人々——にとってばかりでなく、教会の中で権威を行使する「大きな」人々にとっても真実なのです。

教会を愛することは、どこへ行こうとも、教会の中で喜んでイエスに出会おうとすることを意味します。この愛は、すべての人の考えや行いに賛成したり、是認したりすることではありません。逆に、私たちからキリストを覆い隠してしまう人々に対決するよう私たちに呼びかけるものです。けれども、対決するにせよ肯定するにせよ、批判するにせよ賞賛するにせよ、私たちの言葉と行いが教会を愛する心から出てくる場合のみ、私たちは実り豊かなものとなることでしょう。

(1025)

九里 彰訳

諸聖人の祭日 マタイ 5, 1-12

「心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである」(マタイ 5, 3)。

今日、諸聖人の祭日の福音は、信徒でない方たちも聖書の言葉と聞けば、すぐに連想するほど、よく知られているものです。しかし、それだけに、イエスの方、貧しい女性マリアから生まれ、弱さに同情する方として世の中に生き、十字架の上に死なれた方の口から出た言葉であることを忘却し、イエスから切り離された道徳思想、抽象的な理論にしてしまっている危険がなくもありません。

これらの言葉をイエスの口から聴いた弟子たちは、そうではありませんでした、自分たちと寝食を共にしているイエスの口から、直接に聞いたのですから。きっと弟子たちは、自分たちが毎日触れているイエスの秘密、悲しむ人々の悲しみを自分のものとする同情心、どのような状況にも揺れないその柔和さ、憐れみ深さ、すべての中に御父の御旨を求めて生きる心の清さの秘密がどこからきているのか、感じ取ったでしょう。その後のイエスに従って生きてゆく日々にも、弟子たちは、イエスのこれらの言葉を確認して言ったのではないのでしょうか。この確認の頂点は、イエスの受難、十字架の死に直面する態度、行動と言葉なのですが。しかし、弟子たちは、この確認作業をまっとうできませんでした、イエスを見捨てて逃亡してしまったのです。ですが、この弟子たちの裏切り、逃亡は、イエスの秘密の確認を完成する機会と変えられました。自分たちを赦し、受け入れている復活したイエスの心の喜びを痛いほど体験する機会となったのですから。弟子たちが「山上の説教」の言葉を真実に理解し、心に刻み付けたのは、復活者イエスに出会い、イエスのみをもたらすことができる喜びに満ちた幸いに包まれている自分たちを発見したときだ、と言えます。弟子たちは、この喜びを生き、また、すべての人たちをこの喜び、幸いに招くために、全世界に送り出されてゆきました。「心の貧しい人々は、幸いである。天の国はその人たちのものである」。天の国は、時代、地域、国籍、人種、貧富の差を超えてすべての人に、今日、ここで、開かれている。「心の貧しい人」、これは、社会・経済的意味での「貧しさ」と、神と隣人を前にする心の構えとしての「謙虚さ」を一つに結合した造語と言ってよいものです。イエスに招かれ、イエスのように、自分中心ではなく、神と人々との交わりに生きる、また、そのような社会を建設する人たち、それが聖人たち、名も知られない、平凡な聖人たちなのです。わたしたちもその一人でありますように。

ルカ 渡辺幹夫

年間 第32主日 (B)

「この貧しいやもめはだれよりも多く投げ入れた」

(マルコ12:38~44)

本日の朗読箇所は、与えるということに対する私たちの態度を反省するように招いています。シドンのザレファトのやもめはその地方の飢饉で苦しんでいました。やもめであることは、援助を受けるしるしです。イスラエル人は、やもめや孤児、寄留者に対して特別に配慮するように命じられていました。そのやもめは、壺の中にほとんど粉がありませんでしたし、瓶の中にほとんど油はありませんでした。しかし彼女はエリヤを神の人と認め、自分の必要よりもエリヤの必要を大切にしました。イエスはエルサレムの神殿で献金箱に自分の収入を入れたやもめをほめました。神殿の維持と市民の規律に対する関心は、彼女の個人的な必要にとって代わりました。これら二人のやもめは、自分たちの所有物を管理しているのは神であると考えた人々の姿として描かれています。このことは、与えるということに対する四つの態度について考えさせます。

強制的なもの：この場合、与えるという行為は内部から起きるものではありません。名声や名誉、あるいは社会的圧力のような外部的力の結果です。アナニヤスとザフィラは5幕で子供の教会を助けるために財産を売りました。しかし、彼らは自分たちの死の原因となる小さな部分をとり残しておきました。贈り物の中に自分自身を与えないならば、与える喜びと同様に贈り物も失います。

義務によるもの：新約のユダヤ人も旧約のイスラエルの民も、税という形で義務による与えるということを経験しました。これは今でも消費税やそのほかの公的保険料などに見られます。イエスは、これについてご自分の立場を明確にしています。「シーザーのものはシーザーに、神のものは神に返しなさい」。もし与えることに対して正しい態度を持っていれば、私たちは快く与えることになるでしょう。

条件付きのもの：この場合、人は再び取り戻すことを条件に何かを与えます。そこには結び付きがあります。この場合、取り戻すまでは与える喜びは来ません。ペトロは、家族や財産を捨てる代わりに何が得られるか知りたと思いました。もしそれが神の国のためであったり自己否定を伴うものであれば諦めたものの100倍プラス永遠の生命をを取り戻すとイエスははっきり言われます。

無条件のもの：この場合にはイエスが言われるように、食事を準備したとき、あなたにお返しのできない人達を呼びなさい。こうする人達は、他の人達に期待しているのとはほとんど同じものを与えます。与えるものの中にあなた自身を与えなさい。本日の第二朗読でヘブライ人の作家は、旧約時代の高い地位にある司祭の犠牲とイエスの奉獻について述べられています。これは自己をトータルに与えることです。ザレファトのやもめと神殿のやもめは自分自身を与えることで、聖書の中で不動の地位を得ています。これは自己をトータルに与えることへの報いです。

マラティの詩人ヴィンダ・カランディカルという言葉で終わります。「与える人から何かを得たいならば、与えることへの彼の態度をとりなさい」。与えることに対して正しい態度をつくり上げていきましょう。

(Sr. Paulina)

「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる」(マルコ 13, 28)。

このお言葉は、わたしには唐突に感じられるのです。その前後の文脈は、世界の終わり、いわゆる最後の審判への言及が述べられている、その文脈に合わないと思うのです。この文脈でしたら、同じいちじくのとえでも、「いちじくの葉が落ちたら、冬が近いことを知りなさい」との言い回し、この方が適切な気がします、イエスの時代のユダヤにもこの表現がなかったわけではないのですから。この方が、時が速く過ぎ去り、終わりの日、審判の日が切迫していると、身に染みて感じるのではないのでしょうか。少なくとも、わたしたち日本人のメンタリティーにとっては。

しかし、これは、どうも、あまりにも日本人的発想である、いえ、日本人という枠を超えて、自然界の四季のサイクルの中に生きることをよしとする自然的人間そのものの感性であって、福音、イエスが神のもとからもたらす人間の知恵や感性の産物ではない喜びの知らせには合致してはいないようなのです。ある方も、こう書いていました。「イエスは終末のしるしのたとえを、冬のイメージではなく、木が枯れることよりも木が葉を繁らせる、木の生命力が爆発する夏のイメージで表そうとしている。人間の経験、実感、知恵、感受性に捕らわれていないイエスにとって、終末は冬としてではなく、夏のイメージで把握される。つまり、終わりの日は悲しむべき生命の死に絶える日ではなく、それは喜びの日、生命の充溢の日なのである。終わりの日は、悲しむべき裁きの日ではなく、それは、神の救い、恵みの成就、神の救いの計画の完成の喜びの日なのである」と。生命が死に果てる冬ではなく、夏が近づく。生命が内に秘めて持っている活力を、老化して古く堅くなった枝にも行き渡させ、みずみずしい柔らかなものとし、その葉を繁らせ、花を咲かせ、豊饒な実を实らせる。この夏の豊かさは、イエスが、そのお言葉と生涯で、硬直化し、化石化した人間の心にもたらす救いの恵みの生命力を指し示しているのではありませんか。

実に、わたしたちは、日ごとに、生命の源イエスをわたしたちの生命のうちにお迎えしています。しかし、この訪れを、真剣に受け止めているのでしょうか。このイエスが注がれる生命、成長させようとされている活力、生命力を、自分の命の隅々にまで浸透させているのでしょうか。

ルカ 渡辺幹夫

王であるキリストの祭日

“真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。”(ヨハネ18:33-37)

王であるキリストの祭日に、何がキリストを真の王としているのかを、考えてみましょう。王であるキリストの特徴は何なのでしょう。

私たちはキリストを“王”と呼んでいますが、この地上でのご生活を見ると最も王らしくなく振舞い、話しておられます。・軍隊も追従する家来も持たず、宝石をちりばめた王冠も黄金の玉座ありません。武器も贅沢な御車も…。それどころか、人々の注目の的となるようなことから離れて、そのみ後を慕って付いてくる人たちが近づきやすいように隠れて過ごされました。宇宙の王であり、主であるお方は、30年間、人の知らない小さな村で両親の仕事を手伝いながら普通の生活をなさいました。これが私たちの救い主であり王であるお方のなさり方です。隠れたところでの、思いやりと勇気のある過ごし方です。

今日の福音を読むと、私たちはイエスがピラトの前に穏やかに立ち、王であることを認め、その存在目的を宣言される姿に出会います。“わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に來た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。”イエスが王であることの認証印は本物です。イエスは真理を重んじ、人々を真理の小道に従うように招かれます。最後には、真理を重んじるあまりご自分のいのちを犠牲にされたのです。イエスの王職はその死で終わることはなく、却って逆に、その王国はイエスの十字架上の死によって築かれました。この王国は、この世には属していないとイエスが証しされたように、永遠の栄光と輝きのうちにとこしえに続きます。イエスは天国の玉座からではなく、わたしたちの罪に汚れた心の内にあって支配し、導いてくださいます。多くの人々の生活の中で、愛と真理と謙遜のメッセージをもって、その思いを響かせてくださいます。身分の低い人、愛されない人、恵まれない人、弱い人、重荷を負っている人や貧しい人々をご自分の方に引き寄せ、休ませ、その大きな愛と憐れみで包んでくださいます。王の王である最も偉大なお方、私たちの主であり救い主であるお方に近づくと、私たちは自分の生活を委ね切って、この方を心の王とするのです。イエスに属することを決意するとき、イエスは私の心の支配者となります。私たちが誠実で、正しく、憐れみ深く、親切であることを誓うときはいつも…。自分の持ち物や恵みを必要な人々と分け合うとき、又抑圧されている人々に自由を謳歌させてあげようと努力するとき、私たちはキリストの王国の一員となります。その時、王であるキリストはその愛の王国で、私たちを通して、私たちの愛と奉仕を通して支配なさるのです。

忠実に主に留まるための勇気と忍耐をお与えくださいますように。常に真理の側に属し、神である救い主、全世界の王であるキリストの声を聞き、その支配を証しする者となりますように。

(Sr. Paulina)

待降節第一主日 ㊦ 21, 25-28. 34-36

「諸国の民は、なすすべをしらず、不安に陥る。人々は、この世界に何が起るのかとおびえ、恐ろしさのあまり気を失うだろう。天体が揺り動かされるからである」(㊦ 21, 25-26)。

この言葉を聞いたある婦人がおっしやいました。「夫が癌の末期で、あまり長くもたないと宣告されたときのわたしみたい。足もとがガラガラと崩れ、へなへなと椅子に座り込んでしまった。まだ独立していない二人の子供のこと、住宅ローンの返済、いっぺんに頭の中を駆け回り、何から手を着けていいのかも分からなくなり、ただウロウロするだけだったときのことが言われているみたい」。この婦人にとって、医師の宣告は、世の終わりか、と思えるものでしたでしょう。確かに、わたしたちの人生の中には、世の終わりと思えるような状況に遭遇するときがあるものです。すべてのものが崩れて行く、それと共に、わたし自身も崩れて行く、それでよいのでしょうか。

このイエスの言葉は、わたしたちを恐怖、不安、崩壊に陥れるためのものではなく、むしろ、真実の揺るがない喜び、安心をもたらす土台を差し出しつつ、この基盤を真摯に求めるようにと招くものです。実に、イエスのお口から出た言葉、福音、喜びの知らせの一部分なのですから。イエスは、続けて断言されます。「このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の 때가近いからだ」。解放の 때가近い、わたしたちがそれまで無しでは済まされないとしがみついていたものが、実は、あてにならない、揺り動かされ、崩れやすいものであったと、その真実の姿を露呈してくる、その時は、むしろ、恵みの時ではないのでしょうか。そして、わたしたち自身も、そのようなものが堅固で安心して身をゆだねられると思い込み、信じこんでいたかったのは、自己欺瞞だったと、気付かせていただき、それは真実への解放の時なのではないのでしょうか。

実に、崩壊することのない磐石の岩、地獄の門も凌駕できない堅固な砦が、天から与えられています。使徒パウロは書いています。「もし神がわたしたちの味方であるならば、だれがわたしたちに敵対できますか。わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、その御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか」(ローマ 8, 31-32)。待降節は、この御子による解放を待つ時です。ルカ 渡辺幹夫

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

21. グァダラハラの子の殉教者 (1936.7.24 惨死)

— 聖フランシスコ・ボルジアのマリア・ピラール、聖ヨセフのマリア・アンヘレス、幼きイエスのテレサ

1936年に勃発したスペイン内乱の折、最初の花として殉教したのが、グァダラハラの聖ヨセフ修道院の三人のカルメル会修道女、聖フランシスコ・ボルジアのマリア・ピラール、聖ヨセフのマリア・アンヘレス、幼きイエスのテレサである。

Sr.マリア・ピラールは最年長で、58歳で殉教した。20歳でカルメル会入会、ご聖体に対する愛と、レース作りの技術で知られていた。彼女はすでに自分自身をいけにえとして捧げており、機会があれば、姉妹たちの身代わりとなるつもりであった。同じ修道院に姉のSr.ご聖体のアラチェリがおり、後に彼女は妹の殉教の最初の証言者となった。

Sr.マリア・アンヘレスは31歳で殉教、彼女の生涯については生き延びた二人の姉妹たちが詳しく証言している。年少の頃から敬虔さと使徒的熱意のゆえに知られ、リジューの聖テレーズの生涯の影響を受けて、カルメル会入会を決意した。母親の死後、父親と病身のお婆の世話をし、その後24歳でカルメル会に入会。殉教して主のために血を流す機会を得ることを熱く望みながらも、自分ではそのような恵みにふさわしくないと感じていた。彼女は1936年7月24日の午後に亡くなった最初の殉教者である。

Sr.幼きイエスのテレサは、1909年生まれで、16歳でカルメル会入会、殉教のときは27歳であった。彼女の死後、証言者たちは、彼女ほど勇敢な修道女は見たことがないと言っている。できるかぎり兵士たちに抵抗し、その誘惑を拒んで殉教した。

以下は、列聖省の教令からの引用である。「グァダラハラの女子跣足カルメル会聖ヨセフ修道院の修道女であった、神のはしため、聖フランシスコ・ボルジアのマリア・ピラール、聖ヨセフのマリア・アンヘレス、幼きイエスのマリア・テレサは、偉大な霊的母[聖テレジア]に教えられて、カルメルの道だけではなく、カルワリオの道をも喜びをもって抱きしめ、殉教の偉大な証しによって、福音的勧告、苦行、観想の道を完全に達成した。」



グァダラハラの三人の殉教者

左から、幼きイエスのテレサ、マリア・ピラール、マリア・アンヘレス

—— 祈り ——

… マリア・ピラール …

(ご聖体のための飾りを準備しながら)

「これは、生きておられるお方、生きておられるお方のためです。」

(殉教に際して、苦しみの中で)

「父よ、彼らをお許してください。自分が何をしているのか知らないのです。」

… マリア・アンヘレス …

「おお、最も甘美なるイエスさま、私たちはいつも忠実な小羊のようにあなたに従いたいのです。必要ならば、あなたのために命を投げ出しても。」

「私の神よ、殉教の苦しみの中にある私の命を、あなたへの愛の証しとしてお受けください。あなたは、あなたを愛し、あなたの愛のために死んだ数多くの靈魂の命を受け取ってこられたのですから。」

… 幼きイエスのテレサ …

(テレサは、次のように叫んで亡くなった)

「王であるキリスト、万歳！」

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注) タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (30)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

神の母のアロンソ修道士の召命 (3)

夜が明けるやいなや、二人の修道士が門を叩きました。彼らは、疑いなく、ロス・サントス・マルティレス修道院から朝早く出てきたのでした。私は時ならぬ来訪に驚き、神父たちはどんなことを命令したのか尋ねると、彼らは少しお金を貸してほしいのだと答えました。私が「どのくらいですか」と言うと、彼らは答えました。「どのくらいというより、どうか私たちと一緒に来てください。そして私たちが買うものの代金を支払ってください」。私は一緒に行き、白と茶色の毛織物、ふかふかした織物、木綿の布、バンド、サンダル、カルメル会の祈りの聖務日祷書などを買いました。一人の使用人にかつがせながら、ロス・アンヘレスのペドロ神父は、私にこう言いました。「これらはみなあなたのためです。さあ修道院へ行きましょう」と。私は、私たちの神父（訳注：ヨハネ神父のこと）に答えたと同じ呪縛を感じながら、「行きましょう」と答えました。

その後、修道服を受け取るため修道院の集会室に入りました。分かったことは、皆が、私の叔父にあたる大司教の許可と承認なしに私には修道服を与えないこと、また私自身はその許可を願いにいくべきと決定していたことでした。というのも、修道士たちが私をだましたということを、大司教は理解できないでしょうから。大司教が怒りっぽい人であると私が感じていたとか、彼らが私をカルトゥージオ会から引き離したなどと言うことはできないでしょう。けれども私たちの聖なる神父、十字架のヨハネ修士の霊と言葉の力は、私のような石の心にも影響を及ぼしました。私は許可を願いに大司教の所へ行き、大司教は修道会の仕事に私が耐えられるかどうか調べた後、不承不承私に許可を与えました。私は修道院にもどり、人々は私に修道服を与えました。

(続く)

祈り

先日、本棚の整理をしていましたら、本の間から手帳大の、1枚の印刷された小さな紙がこぼれ落ちました。何だろうと手に取ってみますと、1989. 10. 21. の日付で、次ぎのような祈りが書かれてありました。

- ① 主よ、私の目を通して 彼らを見て下さい。
- ② 主よ、私の口を通して 彼らにあなたの みことば を語って下さい。
- ③ 主よ、私の心を通して 彼らにあなたの 暖かさと愛を感じさせて下さい。
- ④ 主よ、私の時間・働き・健康を通して、あなたの奉仕を彼らのために なさって下さい。 (イエズス会司祭)

1989年と言えば、今から20年前、そうそう 私は……上智大学での、夜の“神学講座”に通わせていただいていた時に、あの有名なエヴァン ヘリスタ神父様から頂いたものだ ということを思い出しました。

懐古的なことはさておき、改めて この4つの祈りを味わってみました。取り上げられているこの4つ、私の目、口、心、そして時間と働き、健康を通して、主と共に愛の眼差しをもち、心から溢れる愛をもって人と語り、行動をしているか どうか反省させられました。

① 私は果たして主の目で人を見ているのだろうか? イヤ、人間は神さまではないから、透明人間のように非のうちどころがない完全な人はないはずです。自分もあの人も人間なのですから。

不完全なところがあるのは当然なのに、自分の心中に“こうあるべき”という一つの信条があると、それにそぐわない人を見るたびに、心中に批判と評価が出てきます。(これのサイたる者がファリザイ人なのでしょうが)それをひっくり返して見るなら、それはその人の長所になっているのに)

② 特に改まった道徳論を言うのではなく、キリストがあ地を行脚されて、種々なことが起こる時に、“自然に流れ出る愛のことば”を、私は語っているのでしょうか?

③ 上述②が、愛から出る言葉でなかったなら、相手が誰であろうと、キリストの愛の深さが伝わるはずがありません。私は他人を、同じ神様の子どもとみているのでしょうか?

高さが10センチにも満たない切込み細工の小さな花瓶があります。形の良さとカットガラスに光のあたるさまが美しく、常に食卓の上に置いてあるのですが、中に活けられる花は道端に生えている野の草花、雑草の類です。

夫が日課として早朝の散歩に出かけるのですが、その道中で毎朝摘んでくるのです。

今はねこじゃらしや赤まんま、すすきの細い穂などですが、時には白や黄色やうす桃色の愛らしい花をつけたものもあり、名前などもしかしたらないのかもしれませんが、何れも楚々としてすこやかで深い感慨を誘い、私はしみじみと目を凝らします。老夫婦の食卓にふさわしい趣、味わいではあります。

夫は、妻に花を贈るというような人物ではないので、50年にもなろうとする結婚生活で、ついぞそのような場面の記憶はないとっていいのですが、後期高齢者の枠内に参入した今になって日ごとに野の草花を妻のもとへと届けます。

私は毎朝小さな花瓶を水で洗い、新しい草花を入れ替えるのを楽しみます。花屋さんにたくさん並ぶ色とりどりの花々の豪華さ、華やかさとは全く別の世界ですが、素朴ないのちの確かさというのでしょうか、萎れてしまったものをつみとったり、傷んだ茎を整えて水切りしたりするときの指先に感じられる愛おしさというようなものが、何かとても大切な得難いものに思えて幸福感に浸されるのです。

名もなく貧しく美しくという言葉がありますが、名もない小さなものへの共感、そして優しいつくしみの情は、恐らく私たちすべての人が心のうちにもっているものではないでしょうか。共通の価値観であると思っています。

本当は、私たち自身が小さく貧しいものであることを、きっと誰もが心深いところで知っているのかもしれませんが、しっくりと身になじむ柔らかな和やかな情感です。

食卓の花のことをこうして書き記していますが、実は、私は食卓というものが好きなのです。

食卓が有している目に見えるもの、そして目に見えないものが好きです。家にある実際のこの食卓はいうまでもありませんが、例えば、雑誌などにある何気ない挿絵やイラストにも、食卓を描いたものは目にとまり、切り抜いてとっておいたりします。料理のレシピノートの表紙にもその一枚を貼りつけましたが、後になってそれはピカソの「赤い食卓」という絵画であることを知り

ました。

食卓は何の変哲もないただの平面、台です。

大きさ、形、装飾などはさまざまでしょうが、つまるところはやはりただの台です。食事を、とにかくものを食べるための台であるのですが、使いみちはそのことにとどまらず、私は手紙を書いたりちょっとした予習、復習をするのには何故かどうしても食卓が落ち着きます。

そういえば孫たちも、自分の机、自分の部屋があるにもかかわらず、宿題のノートをひろげたり、お気に入りの絵本に見入ったりするのはわざわざ食卓に持ち込んでのことでした。また映画や小説等々でも食卓の場面は多くみられ登場人物たちのドラマチックな展開の契機であったりするようです。

何の変哲もないただの平面、台であるからこそ目に見えるもの、目に見えないもの、あらゆるものを載せることになるのでしょう。

人間の喜怒哀楽こもごもを、どっしりと引き受けて、しかし、穏やかな温かな風格をかもしているように感じます。古びて疵ついてもお家の中の要であり、年月の歴史を宿してしっかりと存在します。

「神の小羊の食卓に招かれた者は幸い」

「主よ あなたは神の子キリスト永遠のいのちの糧 あなたをおいて
誰のところへゆきましょう」

ミサの中でこの場面がくると、私は格別の幸福感に包まれます。どれほどのよろこびをもって、どれほどの心をつくしてこの宣言をすることでしょう。私にとってこの場面は言葉に尽くすことのできない幸いの極です。

ミサのこの時、そしてこの世のすべての時にあって、世界中の食卓をひとつも残さず包み、抱き、慈しむ神の小羊の食卓は、私たち一人ひとりの思いに応えて、それを超えて、果てのない主の平安へと日々招き続けているように思えます。

自分では決して贖うことのできない罪深い私たち一人ひとりを、ご自身に引き受けて死んでくださった贖い主の、目の眩むような碗飯振舞です。

私は今日も、今も「いただきます！」。

いのちの言葉 10月

忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。(ルカ21・19)

今月のみ言葉の「忍耐」の原語にあたるギリシャ語は、豊かな意味を持ち、我慢、堅実、耐久力、信頼といった意味もあります。

苦しむ時、誘惑に遭う時、落胆する時、世の魅力にひかれる時、迫害を受ける時、忍耐は必要不可欠でしょう。こうした状況にあって、私たちは、忍耐なしには負けていたという経験を、一度ならずしたでしょうし、また屈服してしまったこともあるかもしれません。あるいはまさに今、このような苦しい状況に置かれているかもしれません。

では、そのような時、どうすればいいのでしょうか。

気をとりなおして…耐え忍ぶことです。さもなければ、私たちは「キリスト者」という名にふさわしくない者となってしまいます。

キリストに従うことを望む人は、日々自分の十字架を背負い、少なくとも意思の力で、その十字架を愛する必要があります。キリスト者として生きることは、忍耐することでもあるのです。

使徒パウロは、真のキリスト者であるしるしとして、自らの忍耐を共同体の人々に示しました。そして、忍耐が奇跡と同じくらい大切であることを、躊躇なく認めています。

十字架を愛し、忍耐して生きるなら、私たちは天におられるキリストに従うことができ、それゆえ、命を勝ち取ることができ

ます。

忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。

二つのタイプの人を考えてみましょう。一つ目のタイプは、真のキリスト者になる招きを感じても、その招きは、石地に落ちた種のようにしか心に残らない人です。情熱はあっても、それは燃えるわらくずのようで、後には何も残りません。

二つ目のタイプは、種が良く肥えた土地に蒔かれるように、神からの招きを受け入れる人です。キリスト者としての生活は芽を出し、成長して、困難を乗り越え、嵐にも耐えることができるでしょう。

このような人は、「忍耐によって、命を勝ち取り」ます。

むろん忍耐するにしても、自分の力に頼るだけでは足りません。神の助けが必要です。

パウロは、神を「忍耐の源である神」¹と呼んでいます。

私たちは忍耐を神に願うことができ、神はそれを与えてくださるでしょう。

私たちがキリスト者であるというなら、洗礼を受けただけでは足りませんし、時々何かの祭儀に参加し、愛徳の行いをするだけでも不十分です。私たちは、キリスト者として成長していく必要があります。そして人は、試練や苦しみ、障害物や戦いなし

¹ ローマ 15・5

には、靈的に成長することはできません。

本当に忍耐のできる人とは、愛する人です。愛は、障害物や困難、犠牲をものともしません。忍耐は、試練を通った愛と言えるでしょう。

マリア様も、忍耐の人でした。

私たちが神を愛することができるよう、神ご自身がその愛を私たちの心に灯してくださいよう、願いましょう。人生の中で、どんな困難に出遭っても、愛があるなら私たちは忍耐を持つことができ、忍耐によって命を勝ちとるでしょう。

忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい。

それだけではありません。忍耐は、まわりの人にも伝わっていくものです。忍耐強い人は、最後まで忠実であり続ける勇気を、他の人たちにも与えることができます。

高いところを目指しましょう。人生は一回きりで、しかも短いものです。キリストに従うため、日々歯をくいしばり、次々と訪れる困難に立ち向かいましょう。こうして私たちは、命を勝ち取るでしょう。

キアラ・ルービック

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのち言葉は、1979年6月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

娘は障害のため、手先があまり器用ではありません。ちゃんとできるようしつければと気負うほど、私は娘に多くを要求してしまい、できないと叱り、喧嘩になることもありました。「いのちの言葉」を生きるようになってから、「まず娘を愛することだ」と気づき、多くを望まず、忍耐しながら、少しずつ愛の内に歩むことの大切さを知りました。また最近職場で、ある同僚に対してストレスを感じるようになりました。一緒に仕事をしていけないと上司にもグチをこぼしたりしましたが、後で、私の心の隅に「許すこと、受け入れること」とささやく声を感じました。同僚の中に、私自身の欠点が見えることも嫌悪感の一因でしたが、相手を受け入れる決心をした途端、その思いも不思議と消えました。今では楽しく仕事ができるようになり、何かが起こる時にも、その都度忍耐を忘れずに、相手と一致するよう心がけています。(S)

連絡先

フォコラーレ：

03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

担架にて此道行きしその日より帰らぬものとなりにし我子

五十日あまり重き思を抱きつつ日日に通ひし病院の道

西田幾多郎

寸心

伊藤宏見 著 「西田幾多郎 心象の歌」より著者の許可を得て掲載

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター '09年11月~'10年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 一泊聖書深読 (毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

⑥ 12月19日~20日 新井延和神父

⑦ 2010/ 2月27日~28日 新井延和神父

※①、② ③、④終了。また、聖書深読日程に変更がございます。

11月28日~29日分が中止となり、上述日程での深読黙想となります。どうぞご了承下さい。

2. 奉獻生活者のための黙想会

C 11月 9日 (月) 夕食~11月18日 (水) 朝 松田浩一神父

D 12月26日 (土) 夕食~ '2010/1月4日 (月) 朝 中川博道神父

※A、B終了致しました。

3. 木曜黙想会 (毎回木曜日 10時~16時)

年間共通テーマ《祈りを深める》

11月26日 ミサの祈り 今泉 健神父

2010/ 1月28日 主の祈り 松田浩一神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎回金曜日 10時~16時)

12月11日 十字架の聖ヨハネ ベルナルド神父

2010/2月12日 聖エリア 中川博道神父

5. 「社会人のための心の休息」一日常のキリスト教霊性を求めて—

(毎回金曜日 20時～ 土曜日 15時)

新しい企画

松田浩一神父

⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)

⑦ 2010/ 1月29日(金)～30日(土)

⑧ 2月26日(金)～27日(土)

※①, ②, ③, ④, ⑤ 終了

尚、この企画は社会人(働いている人)の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6. 青年黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

11月21日(土) 16時 ～23日(月) 14時

7. 祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

12月24日(木)～25日(金)《講話なし、夕食なし》

8. 待降節黙想会

12月4日(金) 20時～6日(日) 16時(4日は夕食を済ませてご参加ください)

テーマ: 「闇夜に輝く、神のみことば」

指導: 松田浩一神父

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2009年～2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

了 7月21日	了 7月24日
了 9月8日	了 9月11日
了 10月27日	了 10月30日
11月24日	11月27日
12月15日	12月18日
2010年 1月19日	1月22日
2月23日	2月26日
3月9日	3月12日

<お問い合わせ : carmel-reisei@hotmail.co.jp>

東京

木曜 黙想会

一般黙想

2009年 3月12日

テーマ：「共に苦しむ神」了

7月 9日

テーマ：「イエスは祈られた」了

金曜 黙想会

カルメルの聖人

2009年 4月17日

テーマ：「御復活のラウレンシオ」了

2010年 2月12日

テーマ：「聖エリア」

対象：どなたでも

時間：10時～16時

指導：中川博道師

費用：3,500円

場所：聖テレジア修道院（黙想）

お申込みは下記＜聖テレジア修道院（黙想）＞へ お願いいたします

158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

木曜黙想会

ミサの祈り



ミサは教会生活の源泉であり頂点であると教えられています(典礼憲章 10)。しかし、8月にマニラで行なわれたアジア司教会議では、「ミサが本来目指しているものがあまり具体化されていない。」という現状が浮き彫りにされていました。それは、私たちがミサに参加し切れていないということでもあります。どうしたらミサに前向きに深く参加していけるか、ミサに参加するとはどういうことなのかを祈りのうちに探ってみましょう。

日時：11月26日(木) 10時～16時

場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

担当：今泉 健 神父(カルメル会)

会費：3,500円

申込み：〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

青年黙想会



「今までの道、これからの道。」

日時： 11月21日(土)16時～ 23日(月)14時

場所： 聖テレジア修道院(黙想)
(東急大井町線上野毛駅下車)

対象： 青年男女(35歳迄)

定員： 20名

指導： 中川博通 師 ・ 松田浩一 師

費用： 一般 10,000円 学生 5,000円

締切： 11月14日(土)<必着>

※住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、ハガキ・FAX・Eメールで、
下記まで。

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

158-0093 東京都世田谷区上野毛
2・14・25

電話 03(5706)7355

FAX 03(3704)1764

Email: mokusou@carmel-monastery.jp

待降節黙想会



テーマ:

「闇夜に輝く、
神のみことば」

日時：12月4日(金)20時～ 6日(日)16時
※4日は、夕食を済ませてご参加ください。

指導：松田 浩一神父

- ・ 4日は、夕食を済ませてご参加ください。
- ・ 詳細は、下記アドレスにお問い合わせください。

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

電話 03(5706)7355

FAX 03(3704)1764

Email: mokusou@carmel-monastery.jp

『社会人(働いている人)のための心の休息』

— 日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴を行います。
- メソッドの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- ① 2009年 4月17日(金)～18日(土)了
- ② 5月 8日(金)～ 9日(土)了
- ③ 6月19日(金)～20日(土)了
- ④ 9月11日(金)～12日(土)了
- ⑤ 10月23日(金)～24日(土)了
- ⑥ 11月 6日(金)～ 7日(土)
- ⑦ 2010年 1月29日(金)～30日(土)
- ⑧ 2月26日(金)～27日(土)

(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 5,000円

【霊的同伴】 松田浩一神父

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
Tel 03-5706-7355、Fax 03-3704-1764
E-Mail: mokusou@carmel-monastery.jp



聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
 指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
 聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる
 人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生き
 ることです。皆様のご参加をお待ちしています。

* 日時：① 2009年12月19日（土）18時～20日（日）16時

② 2010年 2月27日（土）18時～28日（日）16時

* 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

* 指導：新井延和師（カルメル会司祭）

* 会費：¥7000

* 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。



参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一朗著 ¥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

降誕祭のミサにあずかるための黙想

*日時: 12月24日(木)夕食なし～25日(金)朝食後10時まで
24日(月)は、午後3時より入室できます。

講話は、ありません。

夜半のミサより主のご降誕(日中のミサ)にかけて
主イエス・キリストのご降誕を黙想し、静修の時を過
ごしましょう。

*費用: ￥4000

*お問合せ、お申込みは、上野毛聖テレジア修道院(黙想)

電話:03-5706-7355・FAX03-3704-1764



'09年12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

11月14日 (土)～15日 (日)

渡辺幹夫神父

一日 (午前10時から午後4時)

10月31日 (土)

九里彰神父

12月12日 (土)

新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

11月 4日 聖なる冒険

Sr,パウリン

12月 9日 暗夜

九里彰神父

3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月5日 (土)～6日 (日)

九里彰神父

4. 奉献生活者のための黙想 (午後5時～午前9時)

12月26日 (土)～1月4日 (月)

新井延和神父

5. 青年のための黙想会・男女 (午前10時～午後5時)

11月8日 (日)

九里彰神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

e-mail carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2009）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み” などなど一見“ネガティブ（闇）”と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはず。この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一泊静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第9回	10月17日（土）	アヴィラの聖テレジアの霊性からの 自由と希望	Sr.ベアトリス （宣教カルメル修院）
第10回	11月28日（土）	暗夜に輝く神のみ言葉： 恵まれた方、聖マリア	松田浩一神父 （上野毛修道院）

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:40～ 講話【1】
 - 12:00～ 昼食
 - 13:00～ 赦しの秘跡または短い面接
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会
 - 16:00 終了

申し込みは、下記の住所へVカキかFAXで、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825
一泊静修係 〒465-0058 名古屋市名東区貞船3-2115 小林 厚・晃子 TEL 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

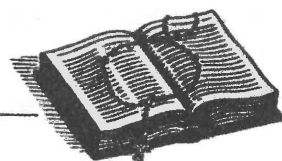
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

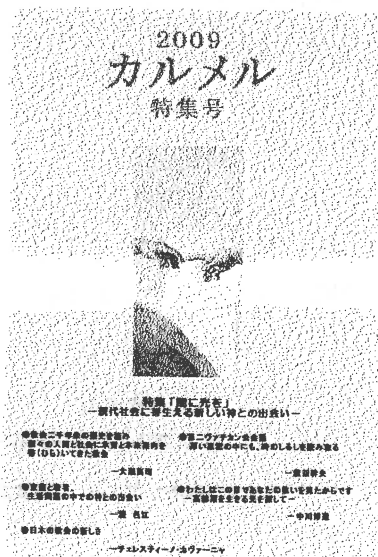
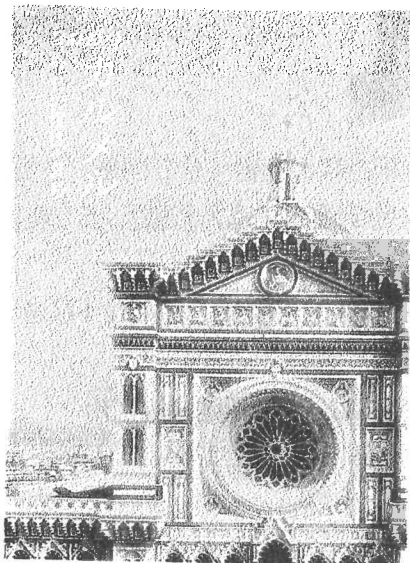
所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読むー



雑誌「カルメル」NO333 (2009年夏号)「今日の靈性」 発売中

- 「馬屋」の靈性 (2) …高橋重幸
- マリアの旅 (4) —外へ出ていく旅、内なる神秘に向かう旅 (2) …中川博道
- 今日の歌 (4) …ペトロ・アロイジオ
- リジューの聖テレーズ 巡礼する旅人 …ユージーン・マッカーフリー
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット (10) 祈りの人 …伊従信子
- 「小さい道」の巡礼者 (5)
- テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山真里
- 「貧しいキリストの模倣」 アシジの聖フランシスコの生涯 …九里 彰
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (25)
- 聖靈に遣わされて …伊従信子
- 百八十八殉教者の列福に思う …谷口正子
- 愛の断章 (12) …奥村一郎

- 「御胎内の御子イエスも祝せられたもう」
マリアの旅 (5) …高橋重幸
今日の歌 (5) …中川博道
「どこにお隠れになったのですか」
—十字架の聖ヨハネに見る靈の旅路 …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (11) …九里 彰
—同じ理想を目指して …伊従信子
エディット・シュタイン
—ユダヤ人の改宗者、そしてカルメル会の殉教者 …ベアトリス・デクンハ
「小さい道」の巡礼者 (6) …中山真里
—テレーズの修練者—三位一体のマリー
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (26) …伊従信子
—マリア
愛の断章 (13) …奥村一郎

雑誌「カルメル」 2009年特集号 発売中

「闇に光を」 —現代社会に芽生える新しい神との出会い—

購読のご案内

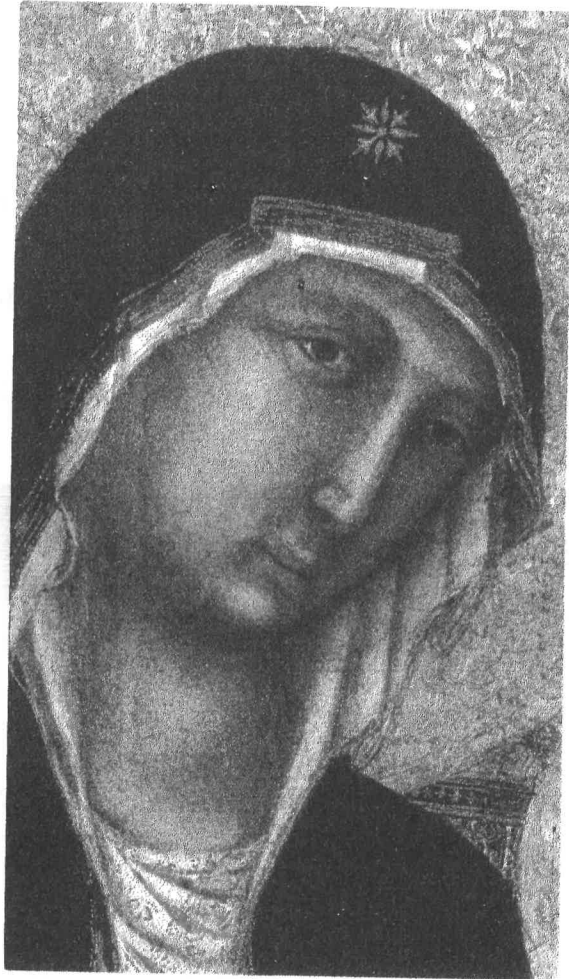
※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費
(年5冊：春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へ
お振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356)

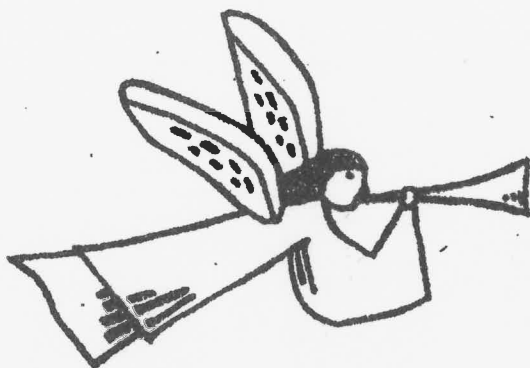
待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』

(以上3冊、ドン・ボスコ社)



諸所の企画案内



心のいほり

真命山靈性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

※ お知らせ

10月号より、諸所の企画記事を編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の掲載となります。どうぞご了承下さい。

よろしくお願いいたします。

編集係り



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

内観黙想の予定表

N2 09・11月2日(月)2時～11月8日
(日) 2時まで 滋賀・唐崎・ノートルダム

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み
6万円です。

F3 09・11月16日(月)2時～11月22日
(日) 2時まで 福岡・御受難会黙想
の家

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせ
てください。

P4 09・11月28日(土)2時～12月4日
(金) 2時まで 兵庫・売布・女子
御受難会

電話では取り次いでおりません。申し込みは
会場予約準備がありますので、10日前までに
完了をお願いします。

K5 09・12月9日(水)2時～12月15日
(火)2時まで 東京・小金井・聖霊会

◎572-0001
大阪府寝屋川市成田東町3-27
「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

先の予定表と若干変わっていますの
で、開始の曜日や時間などにご注意くだ
さい。

予約に決まった後に、会場までの詳しい
地図などの書類をお送りします。

真命山 祈りの集いのご案内

通年テーマ:聖パウロについて
レクツィオ・ディヴィーナ

ダニエレ サルティ・サルトリ神父
マリア デ・ジョウルジ シスター

祈りの集い(毎回午前10時～
午後2時半)

申し込み先
865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

11月19日 聖パウロの逮捕(使徒
言行録21:27～)

12月10日 聖パウロの殉教

指導者
フランコ・ソットコロラ神父(真命山院長)
園田 善昭神父

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。(要予約)

お知らせ

11月号より、
掲載スペースの
関係上、諸所の
黙想企画記事を、
編集部で集約して
打ち込みました。
各御担当者の
皆様どうぞご了承
ください。

センターニュース
編集係

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

リーゼンフーバー講座・集いの案内 2009～10年

詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認ください。

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペ
ホール。どなたでも。聖書に基づきキリス
ト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20
時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階
アルペホール。キリスト教の基礎知識を
持っている方。2年間のコース。信仰理解
と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教
の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 下記の土曜日

9時30分～11時、また11時15分～
12時45分、枝部ホール4階404、2つの
講座・セミナーでキリスト教関係の思想・
哲学・神学を考察します。思想史とキリス
ト教の関係に関心を持っている方、
プログラム等に関してHP(文末)を見よ。
11月7日、28日、12月5日、12日

●坐禅会

月曜日 17時20分～20時10分
木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトウルハイム1階左の
部屋。祝日を除く。3回座り、間に講話が
あります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎
です。遅刻、不定期の参加も可。

●接心

(上石神井)
2010年2月6日(土)8時30分～7日(日)
15時30分 5,900円程度

●ミサ 水曜日 17時10分～18時

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖
堂どなたでも。(但し、休日休)

●祈りの集い 下記の土曜日

13時30分～16時
上智大学内SJハウス第5会議室
黙想、講話、ミサがあります。
11月7日、12月5日、2010年1月9日、2月20日
ロザリオの祈り 同日16時10分～50分
クルトウルハイム1階右小聖堂

●黙想

【会社帰りの黙想】
毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
12月25日(金)はクリスマスの黙想(予定)。

【お昼の黙想】毎月第1・3火曜日

10時40分～11時55分
聖イグナチオ教会マリア聖堂 但し、祝日休。

【水曜日】18時～18時30分

上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。但し、祝日休。

●黙想会

11月21日(土)10時～23日(月)15時(東村山)
2010年3月13日(土)10時～14日(日)15時、
上石神井。一泊5900円程度。

●アガペ会

下記の日、説明会(13時30分)と集い、
ミサ(14時～18時)、上智大学内
SJハウス第5会議室
2010年1月23日(土)

●クリスマス会・クリスマスのミサ

12月19日(土)16時30分 聖イグナチオ
教会マリア聖堂、18時枝部ホール(予定)
要申し込み。
12月23日(水)14時～上智大学内
クルトウルハイム聖堂



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座2009年～2010年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

- 11/6 信仰の決断
～支えられて生きる
- 11/13 ミサ祭儀
—神への奉仕と生活の糧
- 11/20 自己実現と神の意志
—生き方の模範

●11/21～23

黙想会

●11/27 人間の弱さ一罪とは何か

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座2009年～2010年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分
共通テーマ:「日常生活」
(11月17日～)

- 11/17 対人関係と協力
—恵みである他者
- 11/21～23 黙想会
- 12/1 身体と生命—性と倫理
- 12/15 家庭と独身生活
～与えられた招きの発見
- 12/19 クリスマスのミサと
パーティー
(16時30分マリア聖堂、18時岐部ホール予定)
- 12/23 ミサ
(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール
TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス
電話 03-3238-5124{直通}
-5111{伝言}

いのちの泉へ (ノートルダム・ド・ヴィ)

「いのちの泉へ」

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

11月21日(土)

※次回の予定 12月12日(土)

講話 伊従信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

177-0044

練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)・3594・2247

Fax(03)・3594・2254

E-mail notredamedevie.japan@gmail.co

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎1丁目3-1

Tel 077-579-7580

Fax 077-579-3804

E-メール karainorind92@mbe.nifty.com

◎霊的同伴者

トニー・プロドニヤック(メリノール宣教師)

安井昌子(ノートルダム教育修道女)

菊池陽子(ノートルダム教育修道女)

松本佳子(ノートルダム教育修道女)

◎交通

JR京都駅から湖西線で三つ目

「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎申し込み

1)名前、2)住所、3)電話番号、

4)希望日程(番号)を書いて郵送、

または、FAXで「黙想係」安井昌子へ

申し込んでください。唐崎修道院への

案内地図の必要な方は、その旨を

書き添えてください。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでくださ

い。先着順15名です。

◎日程

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

◎12月27日(日)～

2010年1月4日(月)

※①～⑤終了

◎その他

受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、

初日の15時から16時45分まで。問い合わせは、

電話 または、e-メールを ご利用ください。

B. 祈りの体験:週末3日間

(金曜の夕食～日曜の昼食)

「神との親しさの中で日常を生きるために」

⑰11月 6日(金)～ 11月 8日(日)

⑱12月 4日(金)～ 12月 6日(日)

⑲12月11日(金)～ 12月13日(日)

この期間、黙想会が行われている場合があります。

※⑦～⑯終了

◎対象

信徒、修道者、司祭、洗礼を

受けていない方、どなたでも参加できます。

『靈性センターニュース』 郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。

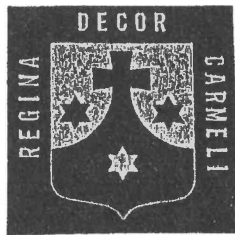


編集後記

先月中旬に、韓国のインチョンで、カルメル会の東アジア・オセアニア地区の会議があった。6つの管区の代表者が集まり、靈的な使徒職の問題について話し合った。会議での公用語は英語で、日本と韓国は、普段英語を使っていないため、どうしてもハンディがある。慣れたところで帰国するといった感じである。

ところで会議の途中、ソウル観光の日があった。ソウルを流れるハン川へ行き、遊覧船に乗ったのだが、そこで大勢の子供たちと一緒にになった。聞けば、日本のNGOの企画で、毎年、6カ国（日本、韓国、台湾、中国、ロシア、フィリピン）の子供たちが集まって、交流しているのだという。小さい時から他の国の人々と交わり、平和な世界を築こうということなのであろうか。

ともあれ、日本の子供たちに英語で話しているのかと聞いたら、何とジェスチャーで話しているのだと言う。実際、楽しそうに他の国々の子供たちと交わっていた。外国語はできるにこしたことはないが、言葉ができなくとも、人は心で十分交流できるのだということを、子供たちは教えてくれていた。 (P. 九里)



あなたにもできる

「靈性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「12月号」製本日

11月24日（火）

上野毛教会信徒会館ホール1階
午後1時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。靈性センター係

TEL 03・3704・2171